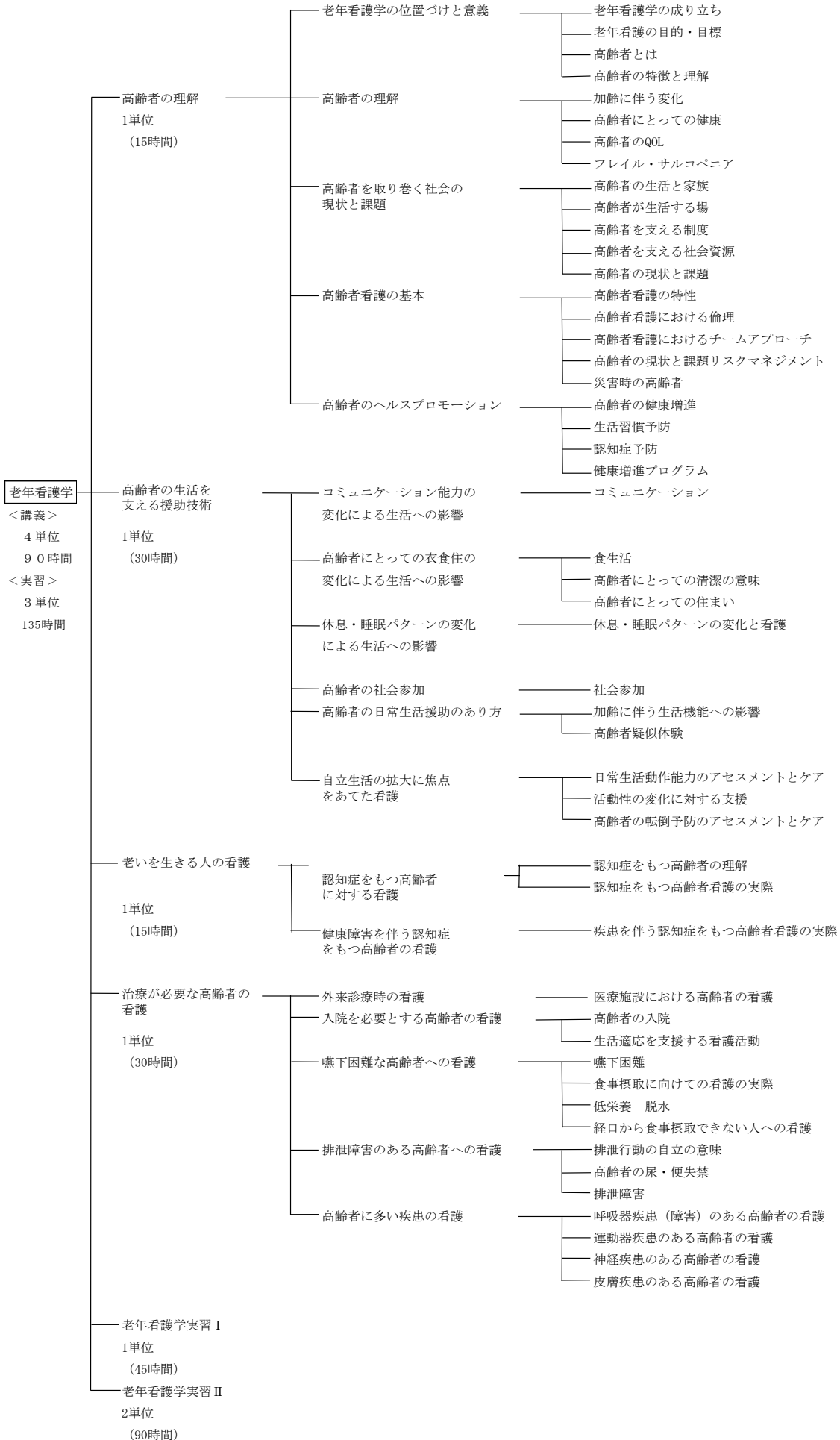


第一看護学科 老年看護学

目 的 老年期にある対象と家族および支える人々を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護を実践できる能力を養う。

- 目 標
- 1 ライフサイクルのなかの老年期の特徴を捉え、老年看護の対象が理解できる。
 - 2 高齢者の健康と生活の多様性が理解できる。
 - 3 高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。
 - 4 高齢者に起こりやすい日常生活上の障害が理解できる。
 - 5 高齢者の健康障害の特徴と高齢者の健康を支える看護が理解できる。
 - 6 ライフサイクルの最終段階にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を養う。

老年看護学 構成図



	高齢者の理解	担当教員 外部講師☆ ① 三島 有子 ② 安達 智紀	単位数 1	時間数 15	時期 1年次 11月～1月
目的と目標	<p>高齢者を生活者として理解し、高齢者の健康と生活を支える基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>1 老年期を生きることの意味と価値について、多角的に捉えることができる。</p> <p>2 ライフサイクルのなかの老年期の特徴を捉え、老年看護の対象が理解できる。</p> <p>3 社会構造の変化、高齢化に伴う医療・保健・福祉の動向と課題が理解できる。</p> <p>4 高齢者看護の基本が理解できる。</p> <p>5 加齢変化に伴う健康状態の理解を深め、健康維持の必要性が理解できる。</p>				
回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員	
1	老年看護学の位置づけと意義	(1) 老年看護の成り立ち (2) 老年看護の目的・目標 (3) 高齢者とは (4) 高齢者の特徴と理解	講義	外部講師 (三島有子)	
2 3	高齢者の理解	(1) 加齢に伴う変化 (2) 高齢者にとっての健康 (3) 高齢者と QOL (4) フレイル・サルコペニア	講義		
4	高齢者を取り巻く社会の現状と課題	(1) 高齢者の生活と家族 (2) 高齢者が生活する場 (3) 高齢者を支える制度 (4) 高齢者を支える社会資源 (5) 社会の現状と課題	講義	外部講師 (安達智紀)	
5 6	高齢者看護の基本	(1) 高齢者看護の特性 (2) 高齢者看護における倫理 (3) 高齢者看護におけるチームアプローチ (4) 高齢者のリスクマネジメント (5) 災害時の高齢者	講義	外部講師 (三島有子)	
7	高齢者のヘルスプロモーション	(1) 高齢者の健康増進 (2) 生活習慣病予防 (3) 認知症予防 (4) 健康増進プログラム	講義		
8	試験 (1時間)	(1) 筆記試験	試験	外部講師 (三島有子)	
評価方法	筆記試験 100点 (1～3回、5～7回: 80点、4回: 20点)				
教科書 参考文献	<p>ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 (MC メディカ出版)</p> <p>国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)</p> <p>*その他、提示する資料</p>				
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。				
☆担当教員 の実務経験	<p>①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。</p> <p>②社会福祉士、介護支援専門員として施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。</p>				

授業科目	高齢者の生活を支える 援助技術	担当教員	専任教員☆ ①	単位数	1	時 期	2年次 4月～7月
			外部講師☆ ②	時間数	30		
目標	<p>加齢変化に伴う生活への影響に対して、解決もしくは生活への影響を最小にするための基礎的知識と看護方法を学ぶ。</p> <p>1 加齢による身体機能の低下が及ぼすコミュニケーションの特徴と援助方法が理解できる。</p> <p>2 加齢に伴う生活のあり方および生活リズムの変化・影響について理解できる。</p> <p>3 残存機能を活用し、自立支援という視点から援助の方向性が理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2	コミュニケーション能力の 変化による生活への影響	<p>(1) コミュニケーション</p> <p>① 高齢者のコミュニケーションの特徴</p> <p>② 高齢者の聴覚・視覚機能</p> <p>③ 高齢者の精神機能</p> <p>④ コミュニケーションを困難にするその の要因</p>			講義	専任教員 ()	
3 4 5	高齢者にとっての衣食住の 変化による生活への影響	<p>(1) 食生活</p> <p>① 高齢者の食事の意味</p> <p>② 食文化（地域による食生活の違い）</p> <p>③ 嗜好</p> <p>④ 食事を通じた交流、共に食べる家族</p> <p>(2) 高齢者にとっての清潔の意味</p> <p>① 高齢者の清潔保持に影響するもの</p> <p>② 高齢者の衣服の選択</p> <p>③ 清潔のセルフケア支援</p> <p>(3) 高齢者にとっての住まい</p> <p>① 自宅における住環境</p> <p>② 住環境のアセスメントと調整</p> <p>③ 施設における住環境</p>			講義 演習 発表	専任教員 ()	
6	休息・睡眠パターンの変化 による生活への影響	<p>(1) 休息・睡眠パターンの変化と看護</p> <p>① 高齢者の睡眠の特徴</p> <p>② 睡眠障害のアセスメント</p> <p>③ 安眠への援助</p>			講義		
7	高齢者の社会参加	<p>(1) 社会参加</p> <p>① アクティブエイジングの時代</p> <p>② 高齢者と社会参加</p> <p>③ 地域における高齢者の社会参加</p> <p>④ 今後の高齢者の社会参加</p>			講義		
8 9 10	高齢者の日常生活援助のあり方 (5時間)	<p>(1) 加齢に伴う生活機能への影響</p> <p>① 生活史を通じた理解</p> <p>② 生活習慣・生活様式</p> <p>③ 国際生活機能分類 (ICF)</p> <p>(2) 高齢者疑似体験 (3時間)</p>			講義 演習 演習		

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員		
11	自立生活の拡大に焦点をあてた看護	(1) 日常生活動作能力のアセスメントとケア ① ADL の評価指標 ② ADL をアセスメントするときの注意点 ③ ADL を高めるためのケア ④ 生活リハビリテーション	講義 演習	専任教員 ()		
12					(2) 活動性の変化に対する支援 ① 生活活性化の意義と目標 ② 心身の活動性を高めるケア	講義 専任教員 ()
13			(3) 高齢者の転倒予防のアセスメントとケア ① 転倒が高齢者に及ぼす影響 ② 転倒の要因・背景 ③ 転倒予防のアセスメント ④ 転倒予防のための援助 ⑤ 転倒が発生した時の看護 ⑥ 行動の制限についての考え方	講義 演習 専任教員 ()		
14						
15						
評価方法	筆記試験 100 点 (1 回～11 回、13～15 回)					
教科書 参考文献	ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 (MC メディカ出版) 系看 専門 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) *その他、提示する資料					
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。					
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②介護支援専門員として施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	老いを生きる人の看護	担当教員 専任教員☆ ① 外部講師☆ ② 藤原 富子 ③ 山添 重幸	単位数	1	時期	2年次 11月～1月
			時間数	15		
目的と目標	認知症をもつ高齢者への看護が理解できる。 1 認知症をもつ高齢者の特性をふまえたコミュニケーション方法が理解できる。 2 認知症による症状に対する援助が分かる。 3 健康障害を伴う認知症をもつ高齢者を対象とした QOL を高めるための援助方法がわかる。					
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員	
1 2 3 4	認知症をもつ高齢者に対する看護	(1) 認知症をもつ高齢者の理解 ① 認知症とは ② 認知症の成り立ち ③ 認知症の診断・評価 ④ 生活行動の評価 ⑤ 認知症の治療 (2) 認知症をもつ高齢者看護の実際 ① 対応の基本 ② 症状に対するコミュニケーション方法 ③ 環境に注目したケア (3) 症状に対する対処方法の検討 (4) 認知症をもつ高齢者との関わり方の実際		講義	外部講師 (藤原富子) 外部講師 (山添重幸)	
5 6 7	健康障害を伴う認知症をもつ高齢者の看護	(1) 疾患を伴う認知症をもつ高齢者の看護の実際 ① 老年看護の展開方法 ② 情報整理 ③ 目標志向型の看護とは ④ 認知症のある高齢者の看護まとめ		講義 演習	専任教員 ()	
8	試験(1時間)	(1) 筆記試験		試験		
評価方法	筆記試験 100点 (1・2回:25点、3・4回 25点、5～7回 50点)					
教科書 参考文献	ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 (メディカ出版) 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) *その他、提示する資料					
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。					
☆担当教員の 実務経験	①～③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	治療が必要な高齢者の看護	担当教員 専任教員☆ ① ② 外部講師☆ ③	単位数	1	時 期	2年次 9月～12月
			時間数	30		
目的と目標	<p>高齢者の特徴をふまえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。</p> <p>1 高齢者の受診時における特徴と支援方法が理解できる。</p> <p>2 検査に伴うインフォームドコンセントと検査時の看護について理解できる。</p> <p>3 入院形態による生活環境の変化と高齢者の心理的反応、社会的影響について理解できる。</p> <p>4 障害のある高齢者への看護について理解できる。</p> <p>5 高齢者に多い健康障害の原因とその程度、生活への影響について理解できる。</p> <p>6 高齢者に多い疾患の看護について理解できる。</p>					
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員
1	外来診療時の看護	(1) 医療施設における高齢者の看護 (2) 外来診察と看護 (3) 検査時の看護			講義	専任教員 ()
2	入院を必要とする高齢者の看護	(1) 高齢者の入院 ① 手術を受ける高齢者の看護 (2) 生活適応を支援する看護活動				
3	嚥下困難な高齢者への看護	(1) 嚥下困難 ① 高齢者の摂食嚥下障害の背景と特徴 ② 摂食・嚥下過程のアセスメント ③ 摂食嚥下障害の看護と評価			講義 演習	外部講師 ()
4		(2) 食事摂取に向けての看護の実際 ① 嚥下障害のある患者への食事摂取への援助 ② 口腔ケアの実際 嚥下障害のある高齢者への口腔ケア 義歯の清潔			演習	歯科衛生学科教員 ()
5	排泄障害のある高齢者への看護 (9時間)	(3) 低栄養 脱水 ① 高齢者の低栄養と脱水の背景と特徴 (4) 経口から食事摂取できない人への看護			講義	専任教員
6		(1) 排泄行動の自立の意味 (2) 高齢者の尿・便失禁 (3) 排泄障害 ① 排尿障害の病態とアセスメント ② 排尿障害の看護 ③ 排便障害の病態とアセスメント ④ 排便障害の看護			講義	専任教員
7		浣腸 摘便			演習	
8		(1) 呼吸器疾患 (障害) のある高齢者の看護 (2) 運動器疾患のある高齢者の看護 (3) 神経疾患のある高齢者の看護 (4) 皮膚疾患のある高齢者の看護			講義 演習 発表	専任教員
9	試験 (1時間)	(1) 筆記試験			試験	

評価方法	筆記試験 100点（外部講師の講義内容を含む）
教科書 参考文献	ナーシンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践（MCメディカ出版） *その他、提示する資料
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。
☆担当教員の 実務経験	①③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。